

業 績 目 録 記 入 要 領

I 記載にあたっては、下記の項目毎に欧文・和文に分け、それぞれ年月日の古い順に記載し、番号を付して下さい。また、各項目毎に頁を分けて記載して下さい。（必ず項目の1番目が頁の頭に来るように記載願います）

1. [著 書]

学術単行書に相当するもので、研究内容を記述したもの。担当した章とページ、編集者名、出版社名などが明らかであること。一般の啓蒙文（教養・指導に関わる文）または **Proceeding** などに掲載された論文要旨などは含まない。

2. [総 説]

学術雑誌または学術単行書に掲載されたもので、一定の学術領域の問題を賛否両論を取り上げてまとめ記載したもの。**reference** が掲載されていることが必要。

3. [原 著]

reviewer のいる学術雑誌に掲載されたもので、研究成果をまとめた研究論文。教育・研究に関わる課題であっても、**reviewer** のいない商業誌または業界誌に掲載されたものは含まない。

4. [症 例 報 告]

業界誌あるいは学会誌などへの症例報告。

5. [その他学術雑誌に掲載された論文等]

学会の論文要旨集、**Proceeding** などに掲載された論文要旨または **supplement**、また商業雑誌、特定の業界の広報誌などに掲載し、教育・研究に関与した課題を取り上げたもの。但し、教育研究に関わらないものは除く。

6. [国 内 学 会]

(イ) 特別講演、招待講演、教育講演

(ロ) シンポジウム、パネルディスカッション、ワークショップ

※ 一般講演の記載は必要ありません。

(業績一覧に件数を記載してください。)

7. [国 際 学 会]

(イ) 特別講演、招待講演、教育講演

(ロ) シンポジウム、パネルディスカッション、ワークショップ

(ハ) 一般講演

業績目録（著書、学術論文、学会発表等の別にそれぞれまとめて記載してください。）

年 月 日

氏 名 兵 庫 太 郎 ⑩

著書（著者・題名・書名（編者）・初頁～終頁・発行所・年）、学術論文（著者・題名・雑誌名・巻・初頁～終頁・年）、学会発表（演者・演題名・学会名・開催地・年）
（著者又は演者全員の氏名を記載順に記入し、本人の氏名にはアンダーラインを付すこと）

著書

（欧文）

1. Nishinomiya J. and Hyogo T. Sensory afferent processing in multiresponsive DRG neurons, In "The polymodal receptor, Progress in Brain Research Vol. 113", (Ed. Mukogawa S.), 387-410, Elsevier, 1996

（和文）

1. 兵庫太郎、オリゴプローブハイブリダイゼーション法、蛋白質・核酸分子の in situ 同定法、バイオマニュアルシリーズ9（西宮次郎編）、67-74、羊土社、1994

総説

（欧文）

1. Hyogo T., T-cell dependent B cell activation, Annu. Rev. Immunol., 11, 331-351, 1996

（和文）

1. 兵庫太郎、痛みと神経ペプチド、神経研究の進歩、42、434-443、1998

原著

（欧文）

1. Hyogo T. and Nishinomiya J., Substance P induced by peripheral nerve injury in primary afferent sensory neurons and its effect on dorsal column nucleus neurons, J. Neurosci., 15, 7633-7643, 1995

（和文）

1. 兵庫太郎、西宮次郎、分娩麻痺の早期診断と治療—第2法 神経修復術の成績—、日本手の外科学会雑誌、3、257-260、1986

症例報告

1. 兵庫太郎、西宮次郎、1才児の中手骨に発生した Ewing 肉腫の1例、整形外科、36、1715-1718, 1985

著書（著者・題名・書名（編者）・初頁～終頁・発行所・年）、学術論文（著者・題名・雑誌名・巻・初頁～終頁・年）、学会発表（演者・演題名・学会名・開催地・年）
（著者又は演者全員の氏名を記載順に記入し、本人の氏名にはアンダーラインを付すこと）

国内学会

特別講演、招待講演、教育講演

1. 兵庫太郎、造血ホルモンの特異性と多機能性、（招待講演）第 104 回日本解剖学会総会、東京、1999

シンポジウム、パネルディスカッション、ワークショップ

1. 兵庫太郎、西宮次郎、ニューロパチックペインの分子メカニズム、（シンポジウム）脊髄の痛み伝達における新知見、第 45 回日本麻酔学会、鹿児島、1998

国際学会

特別講演、招待講演、教育講演

1. Hyogo, T. and Nishinomiya, J., DRG neurons projecting to dorsal column nuclei express preprotachykinin mRNA after peripheral axotomy, 23rd Annual Meeting, Society for Neuroscience, Washington, USA, 1993

シンポジウム、パネルディスカッション、ワークショップ

1. Hyogo, T. and Nishinomiya, J., Inhibition of prostaglandin synthesis and cell proliferation by antisense cyclooxygenase-2 (Cox-2) in rheumatoid arthritis., The World Congress on Inflammation., Tokyo, Japan, 1997

一般講演

1. Hyogo, T. and Nishinomiya, J., Gene therapy for the rheumatoid arthritis using cyclooxygenase-2 antisense oligodeoxynucleotide., The Second Korea-Japan Combined Meeting of Rheumatology., Kyoto, Japan, 1998